


平成 21 年 7 月 8 日

浜田市議会議長 牛尾 昭 様

議員名 岡田 治夫 

調査研究活動報告書








下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 21 年 7 月 1 日～ 7 月 2 日

2. 視察又は訪問先
愛媛県宇和島市議会、広島県呉市議会

3. 参加議員氏名

平石 誠 	山崎 晃 
岡田 治夫 	島本 謙利 
吉田 千昭 	原田 義則 
佐々木 豊治 	

4. 調査経費 171,500 円 (一人当り 24,500 円)

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



浜田市議会議長 牛尾 昭 様

行政視察報告書

下記のとおり視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

- 1、期 間 平成21年7月1日～7月2日
- 2、視察先 愛媛県宇和島市議会 ・ 広島県呉市議会
- 3、参加者 岡田治夫 山崎 晃 吉田千昭 島本謙利
平石 誠 原田義則 佐々木豊治
- 4、調査事項
愛媛県宇和島市 「水産業の振興について」
広島県呉市 「小中一貫教育について」

愛媛県宇和島市

「水産業の振興について」

①市の概要

宇和島市は面積約470K m²、人口約8万8千人で、伊達10万石の城下町として栄えた南予地方の中核都市である。

果樹栽培と共に、漁船漁業、海面養殖、真珠養殖が盛んである。「人と交わり、緑と話し、海と語らうきらめき空間都市」を基本理念にしている。

②水産業の振興について

宇和島市は、宇和海に面しており、まき網漁業や一本釣り漁業が盛んで、マダイ、アジ(伊達アジ)、アオリイカ、イサギ、ウマズラハギ、カタクチイワシ、カサゴ、じゃこ天の原料、ホタルジャコ(はらんぼ)など多種類の魚が取れる。漁獲高は、平成4年約1万5000t有ったが、平成19年には約1万tに減少している。逆に、養殖漁業は、平成4年3万4000tから、平成19年には、4万2000tに増加している。平成19年の、漁獲、生産高は愛媛県全体の53%を占めている。宇和島市の漁業生産額、398億円のうち94%は、養殖漁業が占めている。マダイは全国1位、ブリと真珠養殖は全国2位の実績である。

マダイやブリの養殖は順調に生産されてきたが、販売単価は下落傾向にあり、日本一の現場ですら、青息吐息とのことであった。特に真珠養殖については、最大246億円の生産額から62億円にまで落ち込んできて、多くの漁業者が廃業を余儀なくされているとの事で、愕然とした。

このことに鑑み、宇和島市および漁業関係者は、生き残りをかけた戦略を展開している。

1. 販売促進と販路開拓

日本の魚食ブームを背景に、アメリカ西海岸を中心に魚の売り込みを実施。

2. 産官学連携研究

血合い肉褐変防止技術を基盤とする国際競争力の推進と海外事業展開。

大学と企業と連携して輸出の障害となる課題の取り組み。

3. 副収入になるあたらしい養殖水産物の普及

既存の資材を活用した、トサカノリ、イワガキの養殖。

4. 虹色ツーリズム的副業の推進

サンゴのある地域で、シーカヤックを利用した観光事業の創出。

5. 離島振興

アオリイカの資源の増大策、アワビ、サザエ、トサカノリの養殖。

6. 食育、町の景観維持

地産地消、学校給食にブリスターキ、鯛めしの宣伝、町と海の美化。

7. 各種支援事業や利子補給

真珠養殖対策資金利子補給や緊急支援事業、国の養殖経営対策事業等の実施。

また、生産現場、流通現場もさらなるコストダウン、産地別ブランドから用途型への転換、マハタ、マグロの養殖、暴走的増産の抑制、魚食の普及など、必死の努力をしている。

ほとんどの生産者の経営は、大変厳しく、赤字業者が多いとの事であった。宇和島は、漁協中心の出荷であるが、個人で市場の開拓をしている経営体のほうがどちらかというと、利益を上げているとの事であった。また日本でも有数の産地宇和島でさえ後継者の減少、高齢化が進んでいると聴き、大変驚いた。消費の減少、国際競争、価格の低迷、等が背景にあるとのことであった。

今回の研修は、浜田市にとって、大変参考になったというのが皆の感想であった。

漁業は、県内でも、生産者、漁協、仲買、小売の各業者の利害関係が複雑で、問題が発生している。なんとか互いの協調の下、さらなる漁業振興と、元気のある産地の育成につなげてほしいものである。魚価の回復、資源の回復、新た

なブランド商品の開発、作る漁業への挑戦、後継者の育成等、課題は多いが、^{トウ}今回の研修を今後に生かしたいものである。

広島県呉市

「小中一貫教育について」

①市の概要

呉市は面積約354Km²、人口約25万4千人で、県の西南部に位置し、瀬戸内海に面した港町であり、天然の良港として東洋一の軍港として栄え、あの「戦艦大和」も当地で建造された。

戦後は造船・鉄鋼業中心に発展し、03年から05年にかけて、周辺8町と合併している。07年、新市のキャッチフレーズ「つなぐ手に海・技・人が光るまち」を制定し、市の魅力を大切にしながら市民と一体のまちづくりを進めている。

②小中一貫教育について

呉市の児童生徒数はピーク時の3分の1まで減少し、子どもたちの適正な教育環境を整えていくことが喫緊の課題となっていた。そのような現状のなか、「義務教育を修了するのにふさわしい学力と人間関係力の育成」や「中学校入学時の不安解消と自尊心の向上」をねらいとして、平成12年度から2つの小学校と1つの中学校を対象に、当時の文科省から指定を受け、研究開発学校として、小中一貫教育の研究に取り組んでこられた。

取り組み内容としては、子どもの発達に即して9年間で4（前期）・3（中期）・2（後期）の3期に区分し、小学校から中学校への円滑な移行を考えた指導内容と指導方法の改善などを模索しながら取り組んでこられた。その研究の成果としては、中学校入学時の人間関係に対する不安が減った、自尊感情の回復、学力の向上、いじめ不登校の減少、自分が決めた進路の満足度など一定の成果があり、また、それにともない教職員の意識も変化していったそうである。

そして、研究校の3校が、平成19年4月より「呉中央学園」として開校し、本年4月より「警固屋学園」（1中4小）が2校目として開校した。

今後、市内28の中学校校区すべてで導入するとのことであった。取り組み内容は決して一貫したものではなく、離島や小規模校も多いため、その地域の特色などをいかした取り組みや、何よりできることから取り組んでいきたいとの話しであった。

少ない時間ではあったが質疑応答では、「取り組むにあたり、忙しい現場の教師をどのように引っ張っていったのか」「県教委の支援はどうなのか」「教員の増加は必要なのか」など、浜田市での導入を見据えた具体的な質疑を多く交わす事が出来た。

今回は、小中一貫指導係の女性の指導主事から説明を受けたが、とてもわかりやすく、視察も多いせいかな、とても説明になれた^しおられたように思った。さらに、小中一貫教育の取り組みに対する先進地としての自信も、話しの中から感じ取れた。

今回の研修の成果をふまえ、今後の浜田市の取り組みを一層進めて行く必要を感じると共に、現場の教職員にもぜひ呉市の取り組みを見てほしいと感じた。